ラドテック研究会 第２回若手ポスター発表会 プログラム

①高分子合成・重合、新規モノマー、環境適合

P-01　光および還元刺激により分解可能な機能性ポリジスルフィドの新規合成法の開発
○中市光[1]・北山雄己哉[1,2]・原田敦史[1]（阪公大院工[1], JST さきがけ[2]）

P-02　ビオロゲンポリウレタンの光反応を利用した力学異方性フィルムの創製
○石井悠太郎[1]・中裕美子[2]（東理大院理[1]・東理大理[2]）

P-03　光学的ひずみ計測による湾曲高分子フィルムの表面・断面ひずみ挙動とヒステリシス解析
○関本知沙子[1]・于佳芸[1]・岸本勇勝[1]・久野恭平[1,2]・宍戸厚[1]（科学大化生研[1]・JSTさきがけ[2]）

P-04　2官能(メタ)アクリレートのスペーサー構造が光硬化膜の特性に及ぼす影響
○小林利沙子[1]・松野真佳[1]・水森智也[1]・赤石良一[1]・椿幸樹[1]（大阪有機化学工業株式会社[1]）

P-05　硬化触媒を内包した解重合性マイクロカプセルを用いた光硬化性シリコーン樹脂の開発
○鮫島響[1]・那須沙織[2]・山田恭幸[2]・青木大亮[1]・有光晃二[1]（東理大創域理工[1], 積水化学[2]）

P-06　動的共有結合に基づく熱可逆架橋を組み込んだUV接着剤の展開
○柴崎隼[1]・店網隆之介[1]・小柳津研一[1]・須賀健雄[1]（早稲田大学[1]）

P-07　光架橋型環動ゲルにおける光架橋と光分解の波長依存性 —— ケイ皮酸系とクマリン系の比較
○召田梨里香・木戸脇匡俊（芝工大院理工）

P-08　アクリレート／メタクリレート共重合系におけるモノマー組成比と重合挙動の関係
○川村結菜[1,2]・久野恭平[1,3]・佐藤優之[1]・渡邉知樹[1]・宍戸厚[1]・佐々木健夫[2]
（科学大化生研[1]・東理大理[2]・JSTさきがけ[3]）

P-09　アシラールの脱アルデヒド化を経由した酸無水物架橋の形成と動的特性制御
○早川純礼[1]・高坂泰弘[1,2]（所属[1] 信州大繊維・[2] 信州大ARG機構）

P-10　環化重合性モノマーのコーティング剤への適用検討
○尾野萌[1]・犬伏良祐[1]・植竹和基[1]・橘敦[1]（株式会社日本触媒[1]）

P-11　ビニル基含有ポリウレタンの合成および硬化挙動の評価
○藤井陽向[1]・佐藤絵理子[1]（大阪公立大学[1]）

P-12　ラジカル系メカノフォアを分散した汎用高分子の蛍光性メカノクロミズムに対する置換基効果
○久保田竣祐[1]・細野快斗[1]・高橋明[1]・大塚英幸[1]（東京科学大学[1]）

P-13　イソシアナート基と水酸基を併せ持つアクリル酸エステルを用いた分解性ポリウレタンの合成と解体性接着剤への展開
○大谷尚輝[1]・赤江要祐[2,3]・高坂泰弘[1,4]
（信州大繊維[1]・阪大院工[2]・アーヘン工大[3]・信州大ARG機構[4]）

P-14　ポリロタキサンの末端封鎖を目的としたビスケイ皮酸誘導体の光二量化における溶媒の影響
○野田菜々子・木戸脇匡俊（芝工大院理工）

②インキ・コーティング

P-15　EBインキ、ニスを活用したパッケージ印刷への取り組み
○寺島佳祐・坂本直紀・花田朋広（東洋インキ株式会社）

P-16　損傷を可視化する力学応答性コーティングの設計と開発
○筒井快・酒井翼・内田優斗・高橋明・大塚英幸（科学大物質）

P-17　プレコートアルミ材のリサイクルに向けた塗膜設計の検討 —熱可塑性樹脂のUV劣化挙動—
○塩飽透[1]・佐内康之[1]
（株式会社UACJ　マーケティング・技術本部　R&Dセンター[1]）

P-18　カーボンナノチューブ用新規高分子分散剤
○坂井翔[1]・佐伯聡一[1]・谷奥章人[1]（新中村化学工業株式会社[1]）

P-19　中間水コンセプトに基づくポリグリセリン誘導体による抗血栓性コーティング
○寺戸美樹[1]・吉田真人[1]・保田亮二[1]・田中有希子[2]・山本安希[2]・田中賢[2]
（阪本薬品工業[1]・九大先導研[2]）

P-20　動的光重合を用いたポリマーウォール安定化色素ドープ液晶のウォール構造制御と光応答挙動との関係
○藤田統悟[1]・小山宗一郎[1]・中田優也[1]・久野恭平[1,2]・宍戸厚[1]（科学大化生研[1]・JSTさきがけ[2]）

P-21　ＡＲグラス用高屈折率無機微粒子分散材料「ルクシディア」の開発
○木下 祐紀[1]・伊東 聡子[1]（ＤＩＣ株式会社[1]）

P-22　ナフタレン含有高分子ドーマントによる有機蛍光色素のカプセル化と耐光性評価
○武井千夏[1]・小柳津研一[1]・須賀健雄[1]（早稲田大学[1]）

③接着

P-23　光塩基発生剤を用いたUV硬化型ポリウレタン接着剤の検討
○井上陽依[1]・青木大亮[1]・有光晃二[1]（東理大創域理工[1]）

P-24　接着性の高いジェルネイルの開発
○浅見綾香・江口洋介・北口貴之・尾松武志・采山和弘（株式会社サクラクレパス）

P-25　構造の異なるアクリル樹脂を用いた光誘起レドックス開始剤による遅延ラジカルUV接着
○町田直哉[1]・青木大亮[1]・有光晃二[1]（東理大創域理工[1]）

P-26　刺激発泡型ポリマーブラシを用いたポリスチレン/アルミニウム異種材料接合の光・熱二重刺激による易解体
○野川麗[1]・小野莉生[2]・大野工司[1]・瀧健太郎[3]・伊藤浩志[2]・岡村晴之[1]
（大阪公立大学[1]・山形大学[2]・金沢大学[3]）

P-27　精密UV接着における相分離ドメインサイズ制御と接着特性
○野村汐音[1]・内田直希[1]・小柳津研一[1]・須賀健雄[1]（早稲田大学[1]）

P-28　溶解性に優れた非イオン型PBGの開発とエポキシ/チオール系アニオンUV硬化および接着への応用
○間中心鈴[1]・田中佑耶[2]・青木大亮[1]・有光晃二[1]（東理大創域理工[1]・リンテック[2]）

P-29　ビオロゲンポリウレタンの接着特性
○郷田隆一郎[1]・春山昌太[1]・中裕美子[1]（東理大理[1]）

④電子材料・半導体

P-30　半導体パッケージ向け厚膜ドライフィルムフォトレジストの開発
○岸野真之[1]・古谷創[1]，小坂隼也[1]，池見昌敏[1]（旭化成株式会社[1]）

P-31　塩基反応型熱潜在性チオールのエポキシ系光パターン形成材料への応用
○吉井康貴・青木大亮・有光晃二（東理大創域理工）

P-32　メタクリル酸含有高分子ドーマントを用いた光硬化膜内のポリマー分布・配置制御と界面密着性の相関
○宮地知佳[1]・菊地啓太[1]・小柳津研一[1]・須賀健雄[1]（早大先進理工[1]）

P-33　ガレートアニオン系酸発生剤によるカチオン硬化樹脂の高性能化
○金澤岳, 新田真也, 柴垣智幸 （サンアプロ株式会社）

P-34　リン酸アミド型熱潜在性硬化剤を用いたエポキシ樹脂の低温硬化とその応用
○山内悠士朗[1]・青木大亮[1]・有光晃二[1]（東理大創域理工[1]）

P-35　光配向技術の最新動向
○肥田直己[1]・萬代淳彦[1]・荘田浩之[1]・後藤耕平[1]（日産化学株式会社1）

P-36　希薄アルカリ/アルコール溶液を用いた反応現像画像形成法によるポリアリレートの微細パターン形成
○松田瑞穂･前川紘之･大山俊幸（横浜国大院理工）

P-37　シロキサン構造制御による酸化チタン複合ゾルーゲル材料のインプリント性向上
○植田朋乃可[1]・芦部友樹[1]・飯塚英祐[1]・谷野貴広[1]・諏訪充史[1]（東レ株式会社1）

P-38　光塩基発生剤の水溶性化と水系光パターニング材料への応用
○深山千遥[1]・青木大亮[1]・有光晃二[1]（東理大創域理工[1]）

P-39　次世代半導体パッケージに向けた新規感光性絶縁材料の開発
○杉田健有[1]・柴崎香帆[1]・石川信広[1]（太陽ホールディングス[1]）

P-40　μＬＥＤチップの高速・高精度転写を可能にするポリイミド系レーザー転写材料
○石田昂己[1]・青島健太[1]・城由香里[1]・藤原 健典[1]・宮崎 大地[1]
（東レ（株）電子情報材料研究所[1]）

P-41　水溶性オリゴチオフェン誘導体を用いたカーボンナノチューブ（CNT）導電性分散剤の設計とバインダーフリー導電膜の作製
○大谷昇平[1]・木戸脇匡俊[1]・六車仁志[2]・（芝浦工大院理工[1]・順天堂大医療科学部[2]）

P-42　UV硬化型耐熱ダイシングテープの開発
○綿貫あや[1]・尾関玲勇[1]・戒能さやか[1]（リンテック株式会社[1]）

P-43　（メタ）アクリレートの誘電率・誘電正接
○露木凌也[1]・埴田健介[1]・弘兼由太郎[1]（新中村化学工業株式会社[1]）

⑤界面・表面、バイオマテリアル

P-44　高分解能微細加工に向けた二層シリコーンゴムの作製と培養基材への応用
○吉村公男[1]・木村敦[1]・大山廣太郎[1]・田口光正[1]・大山智子[1]
（量子科学技術研究開発機構(QST) 高崎量子技術基盤研究所[1]）

P-45　界面限定的光架橋反応を利用するα-リポ酸由来分解性高分子カプセルの作製
○高橋悠[1]・北山雄己哉[1,2]・Craig J. Hawker[3]・原田敦史[1]
（阪公大院工[1]・JSTさきがけ[2]・カリフォルニア大学サンタバーバラ校[3]）

P-46　細胞機能制御に向けた微細構造培養基板の作製
～微細構造が細胞内シグナル・運動・形態に与える影響～
○佐藤響[1]・大山智子[2]・山崎雅史[1]・大山廣太郎[2]・田口光正[2]・三好洋美[1]
(東京都立大[1]・量子科学技術研究開発機構[2])

P-47　PFASフリー界面活性剤「MEGAFACE」のご紹介
○植野純平・小野澤勇人（DIC株式会社）

P-48　両親媒性ジアリールマレイミド誘導体のフォトクロミズムと凝集誘起発光
○池田芽生[1]・西川海[1]・續木颯[1]・横山泰[1]・生方俊[1]（横浜国立大学1）

P-49　植物由来ナノ材料 セルロースナノファイバー(CNF)の用途開発
○藤木隆祐・齋藤涼・髙田じゅん（東亞合成株式会社）

P-50　精密UV硬化による階層性相分離構造の形成と多孔性コーティングのポスト機能化
○中村訓子[1]・小柳津研一[1]・須賀健雄[1]（早大先進理工[1]）

P-51　Breath Figure法における濡れ広がり制御による空孔微細化
○本多凌唯[1]・中裕美子[2]（東理大院理[1]・東理大理[2]）

P-52　界面光環化付加重合による糖類由来光反応性モノマーを用いた環境調和型高分子カプセルの開発
○鷲野愛希[1]・北山雄己哉[1,2]・原田敦史[1]（阪公大院工[1]、JSTさきがけ[2]）